

大島家三代能 開催にあたり

ご挨拶

喜多流職分 大島輝久

本日は大島家三代能にご来場賜り、まことにありがとうございます。一家の三世代がそれぞれに能のシテを勤める三代能は我家にとって二回目の開催となります。

前回は三十四年前の平成元年に行いました。

この時私は十三歳で、初めての能となる「箴」を勤めました。不出来な私を祖父の久見が一年かけて懸命に稽古してくれました。能を舞い終わったあとに感じた異常なほどの高揚感を今でもよく覚えております。

一昨年の六月、父の政允が「これでシテは最後にしようと思う」と言い、「俊成忠度」の能を勤めました。無事に舞い終えて皆がホッとしていた数日後、家庭内の何気ない会話の中で父がポツリと「何となく俊成忠度で最後というの寂しいような気がするな」と言ったことが、私の心に引っかかりました。

父の最後の花道を作らなければ、とその時に思いました。

どのような番組にするべきか？と考えた時、私の頭の中に三十年以上前に催した三代能のことが蘇ってきました。『今ならもう一度、三代能が出来る！』
と思い立ち、この度の公演にいたしました。

本日の番組ですが、初番は息子の伊織に前回の三代能で私が舞った「箴」を勤めさせます。

父は祖父も最後の能として選んだ「西行桜」を。留めには私と姉の衣恵とで「二人乱」を珍しい壺出にて勤めさせていただきます。

またお狂言は人間国宝の山本東次郎先生をはじめとする山本家御一門の方々に名曲「萩大名」にて花を添えていただきます。

三代能を四世代に渡って行えることは稀なことであろうと思いますが、このような公演が出来ますのもひとえに、常日頃からご支援を賜わる皆様のお陰でございます。

ここに改めて深く御礼を申し上げます。

34年前の
懐かしいアルバムから・・・

撮影者：小野長生氏

大島家三代能

大島定期公演 134回・別会として開催

演能日：1989(H元)年 4月 16日

会 場：喜多流大島能楽堂



能「箆」シテ 大島輝久



能「住吉詣」シテ 大島久見

子方 大島衣恵 文恵 紀恵



能「石橋」シテ 大島政允

